

単元のゴール(Goal 単元で身につけさせたい力)
(知識・理解に関すること) 我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを元に、日本の地域構成を大観し、理解すること。
(思考・判断・表現に関すること) 日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現できること。
主体的な学びに向けて(Plan 計画)
本単元では、主体的な学びの観点である「児童生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが必要である。そのためには、単元等を通した学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童生徒の表現を促すようにする」を実現するために、単元の初めに単元を貫く学習課題を設定し、見通しをもって生徒が取り組めるように工夫をしている。単元の最後には日本の略地図を用いて自らの学習を振り返り、自分の言葉でまとめられるように工夫をしている。
対話的な学びに向けて(Plan 計画)
本単元では、生徒同士の協働、教職員との対話を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めていくことで、対話的な学びの実現を図っていきたい。そのため、あらかじめ個人で考える時間を作り、自分の意見を形成させたり、それを用いて意見交換したり、議論したりする時間を各時間で設定した。またその話し合いを通して、相手の考えを聞きながら、新たな考え方へ気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりできるようにした。

単元に係る生徒の実態(Research 実態把握)
単元の導入の授業で、日本の姿についての知識や理解についてアンケートをとった。「日本の（東西南北）端はどこか」という質問に対しては、「北海道」「沖縄」のように県名で答える生徒が多かった。また「領土問題について知っていることは？」という質問に対しては、「北方領土」など知っている生徒はいたが、知らない生徒の方が多数だった。
本学年では、深い学びになるように、社会的な見方・考え方を用いて、学習したことを自分の言葉で文章に表現することを続けてきた。そのことから、「対話的な学び」を重視していきたい。
地理的な見方・考え方を働かせること(Plan 計画)

本単元では、社会的事象の地理的な見方・考え方である「社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結びつきなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連づけること」を働かせられる授業内容にする。すなわち、事象の意味や意義、特色や相互の関連を考えたり、地域に見られる課題を把握して、その解決に向けて選択・判断したりできるようになる。

深い学びに向けて(Plan 計画)
深い学びの実現には「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追及したり解決したりする活動が不可欠である。 そこで本単元では「地理的な見方・考え方」を働かせられるよう、単元を貫く学習課題を設定し、諸資料等を用いて多面的・多角的な考察ができるようにして深い学びに向かわせていく。

単元計画 全8時間	
○本時の学習課題 1時間目 ○「日本はどのような地域だろう？」	◆各時間終了後の児童の姿 ◆小学校で学んだ理解をもとに、単元を貫く学習課題を設定し、今後の学習の見通しを持っている
単元を貫く学習課題『海洋や大小様々な島々の位置に着目すると、日本はどのような広がりを持つ国といえるか』	
2時間目 ○「地球儀や地図を活用すると、日本の位置はどのように説明できるか」	◆日本の位置を経度や緯度や隣接する大陸や海洋、近隣の国々との位置関係によって説明できている
3時間目 ○「日本と世界各国の時差はどのくらいあるか」	◆日本と世界各地との時差から地球上における日本と世界各国との位置関係を理解できている
4時間目 ○「日本の領域はどこまでか」	◆日本が離島を含む大小様々な島々からなり、弧状に連なっていることや、海洋国家としての特色について気づいている
5時間目 (本時) ○「隣り合う国となぜ領土をめぐる問題を抱えているのか」	◆領土問題や海洋、海底資源の管理を含む経済水域の問題に着目し、領土をめぐる問題について考えている
6時間目 ○「日本には、どこにどのような都道府県があり、県庁所在地にはどのような共通点があるか」	◆日本地図を使い、都道府県・県庁所在地の名称や位置を理解し、各县庁所在地の共通点について多面的・多角的に考えている
7時間目 ○「日本はどのように地域区分することができるのか」	◆日本の地域区分について、多面的・多角的に考察し、日本の地域構成について大観している
8時間目 (まとめ) ○「海洋や大小様々な島々の位置に着目すると、日本はどのような広がりを持つ国といえるか」	◆日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現し、日本の地域構成について大観している

前時の概要

前時までに、日本の領域について領土だけでなく、領海・領空から成り立っており、それらが一体的な関係であることを捉えた。

また日本の国土が多数の島々からなり、広大な広がりを有する海洋国家としての特色を、日本地図を用いて、国土の東西南北端の島などの位置などに着目して、学んだ。

他の国々との国土の面積との比較や領海や経済水域を含めた面積で比較したりすることで日本の海洋国家としての特色を捉えてきた。

主体的・対話的で深い学びに向けて

【主体的な学び】の実現に向けて

単元を貫く学習課題を授業ごとに確認し、単元で学ぶことに対して見通しを持たせる。

【考えを引き出す工夫】

諸資料として、領土に関するそれぞれの国の見解を通して、それぞれの国の立場からの資料を提示することで、領土問題についての課題やそれに対する取り組みについて考えさせる。

【対話的な学び】の実現に向けて

あらかじめ個人で考える時間を作り、自分の意見を形成させたり、それを用いて意見交換したり、議論したりする時間を各時間で設定した。またその話し合いを通して、相手の考えを聞きながら、新たな考え方方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりできるようにした。

【深い学び】の実現に向けて

地理的な見方・考え方を働かせ、単元を貫く学習課題に向けて追求し、課題を解決できるよう、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりできるようにする。

本時の目標「領土問題解決に向けて、私たちにはどのような取り組みが必要だろうか」

板書計画 ※プロジェクターで一時に映す画像もある。

1、領土をめぐる主張

- (1) 北方領土 … 北海道根室市など
ロシアが不法に占拠
- (2) 竹島 … 島根県隠岐の島町
韓国が不法に占拠
- (3) 尖閣諸島 … 沖縄県石垣市
日本が実効支配 中国が領有権主張



いずれも日本固有の領土

2、島の環境

- (1) 北方領土…択捉島と国後島は高い山、高山植物
歯舞諸島と色丹島は平坦、豊かな漁業資源
- (2) 竹島…西島と東島、火山、断崖
暖流と寒流の境目、豊かな漁業資源
- (3) 尖閣諸島…魚釣島、久場島など
さんご礁、亜熱帯性植物、石油資源

3、島をめぐる国際関係

自国の利益を守る、緊張を和らげる
→立ち入りは難しい

(まとめ)

問題の平和的解決に向けて、自分が調べたり、考えたりしたことを周りの人と共有し、関心をもって問題の動向を見ていく必要がある。

《振り返り例》領土を巡る問題について分かった。大切なことはまずは問題を知ることだと思った。

今後の展開

今回の授業で、海洋国家としての日本の領域についての問題などを含め、大きく大観することができた。

今後に向け、日本の地域区分に注目し、都道府県や県庁所在地の位置や各県庁所在地の共通性などを、日本地図等を使いながら、多面的・多角的に考察し、表現できるようにしていく。

単元のゴールである「我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを元に、日本の地域構成を大観し、理解すること」につなげられるようにする。

本時の流れ（授業スタンダード）※深谷中独自の3分間：自立の時間（課題・問題の提示） 5分間：協働の時間（練り上げ・まとめ） 1分間：創造の時間（次時の予告）

目標・ねらいの提示

はじめに前時の授業で学んだ東西南北端の島の位置を地図帳で確認させる。

本時の学習課題である「領土問題解決に向けて、私たちにはどのような取り組みが必要だろうか」という問い合わせを設定し、掲示する。（3分間：自立の時間（課題・問題の提示））

(本時の学習課題)

「領土問題解決に向けて、私たちにはどのような取り組みが必要だろうか」

北方領土、竹島、尖閣諸島を地図帳で位置とどこの都道府県に属するかを確認する。

※いずれの島も「日本固有の領土」であることを説明する。

自分で考える活動

① 資料：日本の領域と排他的経済水域をもとに、日本の領域として現状と一致していないところを2ヵ所探し、それはなぜかを予想させる。

② 北方領土・竹島と尖閣諸島の違いは何か、考える。

(活動の狙い)

地図資料から、排他的経済水域の広がりと日本の領域について読み取ることで、領土をめぐる問題があることに気づかせる。

仲間と学び合う活動

③ 資料：資料や各国の領土に対する見解を比べることで、私たちが領土問題に対してどのような取り組みをする必要があるか、少人数班で考える。協働の時間（練り上げ）

(活動のねらい)

資料をもとに、各国の領土に対する見解を比べることで、日本の領域が変化していることに気づくとともに、領土問題を解決にするに当たって、どのような取り組みが必要か考えさせる。

学んだことを実感（ふり返り）

授業の最後の5分間で、本時の学習課題「領土問題解決に向けて、私たちにはどのような取り組みが必要だろうか」に沿って、まとめを個人で記入する。（5分間：協働の時間（まとめの時間））

(まとめの例)

問題の平和的解決に向けて、自分が調べたり、考えたりしたことを周りの人と共有し、関心をもって領土問題の動向を見ていく必要がある。

次の授業に向けて、日本の地域区分にから日本の地域構成の特色について考えていくことを伝える。

(1分間：創造の時間（次時の予告）)